

だいせつざんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

実りの秋の朝に

全国的に有名な大雪山の紅葉。旭岳・姿見の池周辺はロープウェイで行ける手軽さが人気で、秋の連休前後にはテーマパークのようににぎわいます。比較的静かな朝、仕事前のひとときのうちに、記録写真を撮りながら歩くのが好きです。

雪の気配も感じられる冷たい空気ですが、晴れた日は斜めに射す朝日に少しぬくもりがあります。山ろくの平地は、一面稲穂の色をしています（朝起きて、部屋の窓から見た色と同じ）。向こうに連なる丘も実りの作物の色。

登山道沿いではハイマツや高山植物が多くの種子をつけ、小さなエゾシマリスがそれを集めています。エゾシマリスをかわいらしいと感じる人は多いと思いますが、エゾシマリスから見ると、人間は大きすぎて怖い生き物かもしれません。向こうから親しみを感じて近づいてくれることはなさそうです。

でも、少し距離をおいて、それぞれの仕事をすることは可能だと思っています。私はクサモミジにカメラを向けながらリスを横目で見、相手もこちらの動向をなんとなくうかがいながら、種子を集めている様子です。思わずリスのほうに顔

を向けて目が合ってしまうと、相手は一瞬動きを止めてこちらを凝視します。驚いたように逃げたしまう時は、食料集めの邪魔をして申し訳ない気持ちになります。

野生のエゾシマリスの寿命は、捕食、病気などの理由で、飼育している場合よりも短く、4歳以上になる個体は少ないそうです。「今朝見た個体はこの冬で何度目の冬眠なのだろう」とつい思ってしまいます。

彼らが毎日を精一杯生きているのは人間に見られるためではない、と理屈では分かっているのですが、朝日の中で出遭うと、このまましばらく見ていたいという思いが生まれます。

十分に餌を蓄え、無事に冬眠の巣穴に入ることができると、冬ごもり中の死亡率は低いそうです。この秋に見たエゾシマリスと来春も遭えるかもしれません。「今日もお互いがんばろうね」。一方的に心の中でエールを送ったりしています。

9月、初雪と前後して紅葉の葉が落ち始めます。10月、姿見は雪が積もっては解ける繰り返し。月末にはあたり一面すっかり雪に覆われ、ナナカマドの赤い実が枝に残ります。

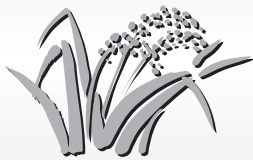
旭岳ビジターセンター 田上千尋 (イラストも)



◀エゾシマリスは口の真ん中に食べ物を入れたり、くわえて運んだりしている「変顔」が見られます。人間による餌付け（餌やり）が問題になることもあります

俳句

手をとりにて秋草の山共白髪
 誰かいる気配ただよう草の花
 踏み分けて色に迷いぬ秋の草
 文字摺草小さき花のいとほしや
 虫の夜の叢に聞くものがたり
 見へていて見へなき神の不知火か
 田の畦に刈り機が残す草の花
 秋草や撓み返して元の丈
 水打って子の長き脛とびはねる
 萩一つ咲き初めし道友が逝く
 一瞬に機影のみ込む罽雲
 海に展ぶ秋草の野や牛一つ
 風の中みぎにひだりに紫苑かな



松山 蓉子
 三島 智
 秋山 深雪
 長谷川 きみゑ
 小林 露葉
 青野 公花
 杉山 ひろのり
 徳光 吐苦
 杉山 りつ
 山口 佐知子
 高瀬 潤
 石澤 清宏
 澤田 久美子